

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																			
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																		
医療	医療専門課程		柔道整復科			平成17年文部科学大臣 告示第30号	-																		
学科の目的	柔道整復師として必要な知識・技術の習得、および医療人としての人格の陶冶を目指す。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																		
3年	昼間	2940		2025	915																				
	時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数																		
150人	96人	1人	5人		23人		28人																		
学期制度	■前期：4月1日～10月11日 ■後期：10月12日～3月31日			成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点																				
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：8月10日～8月15日 8月31日～9月7日 ■冬季：12月23日～1月8日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																				
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動： 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和元年度卒業生） 有限会社とわ（関城接骨院グループ） 医療法人高山整形外科 株式会社K-COMPANY 株式会社まごころグループ 株式会社爽健グローバル 笑顔道整骨院グループ 新所沢整形外科内科 ■就職指導内容 施設説明会実施 施設見学会実施 必要に応じ個別面談 ■卒業生数 31 人 ■就職希望者数 26 人 ■就職者数 25 人 ■就職率 96.2 % ■卒業者に占める就職者の割合 ： 80.6 % ■その他 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)			主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>JATI認定トレーニング指導者資格</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	柔道整復師	②	29人	24人	JATI認定トレーニング指導者資格	③	15人	13人				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
柔道整復師	②	29人	24人																						
JATI認定トレーニング指導者資格	③	15人	13人																						

中途退学の現状	<p>■中途退学者 5名 ■中退率 4.8% (休学者1名含まず)</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者105名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者100名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 精神的問題、学力不足、進路変更による就職希望。</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学（転科等）の指導・助言・相談もを行っている。</p>
経済的支援	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有
第三者による	■民間の評価機関等から第三者評価： 有
当該学科の	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3) 上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働省による柔道整復師養成施設基準に準拠し、臨床の現場で活躍できるより良い医療人を輩出できるような授業の実施を心がける。現場での意見を取り入れ、対応できる授業の実施を行う。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
阿部 雅信	広域社団法人 東京都鍼灸師会	令和2年4月1日～令和3年3月31日（1年）	①
藤田 明	(有)フジタグループ	令和2年4月1日～令和3年3月31日（1年）	③
田尻 賢	(株)ファストサービス	令和2年4月1日～令和3年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日（1年）	
有山 敦士	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和2年4月1日～令和3年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（3月・9月）

(開催日時(実績))

第1回 令和元年10月28日 11:00～12:30

第2回 令和2年6月23日～24日 各所（コロナウイルス感染防止のため）

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

現場に必要な資質として、学力のみならず、負けない気持ちを経験的に訓練してもらいたいとの指摘があった。学力・技術は現場で鍛えられるが、難しいが負けない気持ち培ってもらえるとよい、コミュニケーション力と人間性の育成を培ってもらいたいとの事。認定実技審査での緊張と下級生とのコミュニケーションを多くの時間で取れる改善を今後していく。今後は外部での臨床実習を検討していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 柔道整復師養成施設基準に準拠する。臨床現場で実務を行っている先生を招聘する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 現場の先生方の意見を取り入れ、各種衛生材料（キャスト・厚紙など）、物理療法機械（ハイボルテージ、高周波など）を活用できるようにしている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
包帯1・2	柔道整復師に必要な包帯の巻き方について学びます。	ナンバ接骨院
触診実技	柔道整復師が行う施術における必要な触診技術について学びます。	松山鍼灸接骨院
骨折実技（上肢1）	上肢の骨折について実例を踏まえて整復・固定・後療法について学びます。	はすもと接骨院
ギブス固定実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	(有) フジタグループ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第28回 日本柔道整復接骨医学会学術大会」

(連携企業等： 日本柔道整復接骨医学会)

期間：令和元年11月23日（土）・24日（日）

対象：柔道整復科教員

内容：医学的内容の公演や徒手整復、物理療法、治療法などに関する分学会や症例発表等

参加教員が柔道整復科教員に対し報告と研修会を実施

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第61回公益社団法人全国柔道整復学校協会 教員研修会」

(連携企業等： 全国柔道整復学校協会)

期間：令和元年8月24日(土)・25日(日)

対象：柔道整復科教員

内容：脳を知り、脳を鍛え、脳を守る」東北大学加齢医学研究所 所長 川島 隆太 等

参加教員が柔道整復科教員に対し報告と研修会を実施。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第29回 日本柔道整復接骨医学会学術大会」

(連携企業等： 日本柔道整復接骨医学会)

期間：令和3年1月12日（火）～31日（日）

対象：柔道整復科教員

内容：医学的内容の公演や徒手整復、物理療法、治療法などに関する分学会や症例発表等

Web（オンライン）で開催予定

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第61回公益社団法人全国柔道整復学校協会 教員研修会」

(連携企業等： 全国柔道整復学校協会)

期間：令和2年9月20日(土)・21日(日)

対象：柔道整復科教員 *参加教員が柔道整復科教員に対し報告と研修会を実施。

内容：新型コロナウイルスの影響で中止となる

*新型コロナウイルスにより研修会が中止となったため、他を検討中

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性及び透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性及び指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33) 個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

Society 5.0を踏まえた教育が必要との意見から、専門分野だけでなくインターネットなどのIT技術を中心に修得できるような学科・カレッジを超えたラポーションを強化するとともに、コミュニケーションやビジネススキル向上、部分で積極的に勉強するようなアクティブラーニングの環境を整えるため、地域連携事業を積極的に推進する。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用しやすいIT環境の整備を早急に進めていく。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。

募集活動においては、オンライン面談など将来を見据えた対策も早期に計画する。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を計画していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループ マネージャー)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	卒業生 / IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社ヌーベルバーグ 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日 (1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ()) 令和2年9月30日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和元年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			栄養学 1	生涯を通じた健康的な食生活の送り方や生活習慣病予防のための栄養摂取について学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○			栄養学 2	生涯を通じた健康的な食生活の送り方や生活習慣病予防のための栄養摂取について学びます。	1・後	15	1	○			○			○	
○			経営管理 1	統計学を踏まえて経営管理に必要な税務の基礎を学びます。	1・前	15	1	○			○			○	
○			経営管理 2	統計学を踏まえて経営管理に必要な税務の基礎を学びます。	1・後	15	1	○			○			○	
○			スポーツ 1	アスリートだけでなく、年齢、性別、経験を問わず幅広い対象層に対し、健康と体力とニーズに関して、動機付け、教育、トレーニング指導、コンディショニング、測定、評価など、トレーニング指導者の役割を果たすべく、トレーニングプログラムの作成法、各種トレーニングの実技と指導法、測定・評価、トレーニングの運営、情報収集について理解する事がねらいである。	1・前	30	1			○	○			○	
○			スポーツ 2	アスリートだけでなく、年齢、性別、経験を問わず幅広い対象層に対し、健康と体力とニーズに関して、動機付け、教育、トレーニング指導、コンディショニング、測定、評価など、トレーニング指導者の役割を果たすべく、トレーニングプログラムの作成法、各種トレーニングの実技と指導法、測定・評価、トレーニングの運営、情報収集について理解する事がねらいである。	1・後	30	1			○	○			○	
○			手話 1	日本手話実技とろう文化を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			手話 2	日本手話実技とろう文化を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			解剖学 1	人体のしくみと成り立ちを学ぶ学問であり、疾病の原因またはその治療にあたる人には欠かすことのできない学問です。各器官を系統立てて学びます。	1・前	60	4	○			○			○	

○		解剖学 2	解剖学、すなわち人体の構造についての知識は、すべての医療従事者にとって最も基礎となる知識であると同時に、臨床の場では病態を理解するための大きな武器となる。この科目を受講する学生が、柔道整復学の基礎となる人体の正常構造について、組織学、発生学、画像解剖学の知識とともに統合的に理解することを主な目的としている。	1・後	60	4	○			○										
○		生理学 1	生理学とは、本来、ヒトが生きているということか、ヒトの体はいきていくためにどのような営みをしているのかを考え、健康や病気を理解するために欠かせない基礎的学問である。人体の機能の理解に取り組み、人体を構成する要素を分解してその個々の機能を追求し、さらにその機能がどのようなしくみ（機能）で発現していくかを理解できるようになるのがねらいである。	1・前	30	2	○			○										
○		生理学 2	生理学とは、本来、ヒトが生きているということか、ヒトの体はいきていくためにどのような営みをしているのかを考え、健康や病気を理解するために欠かせない基礎的学問である。この科目では、人体の機能の理解に取り組み、人体を構成する要素を分解してその個々の機能を追求し、さらにその機能がどのようなしくみ（機能）で発現していくかを理解できるようになるのがねらいである。	1・後	30	2	○			○										
○		病理学 1（総論）	人体の機能の理解に取り組み、人体を構成する要素を分解してその個々の機能を追求し、さらにその機能がどのようなしくみ（機能）で発現していくかを理解できるようになるのがねらいである。	1・後	15	1	○			○										
○		柔道 1	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によって、身体精神を鍛練修養し、其の道の神髄を体得する事である。よって、柔道の理念である「精力善用・自他共栄」の体得と実践を目指すのがねらいである。柔道の歴史を理解し、さらに受身を理解していくことで怪我の発生機序についても理解させていくことを目的としている。	1・前	30	1				○	○			○	○					
○		柔道 2	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習によって、身体精神を鍛練修養し、其の道の神髄を体得する事である。よって、柔道の理念である「精力善用・自他共栄」の体得と実践を目指すのがねらいである。柔道の歴史を理解し、さらに受身を理解していくことで怪我の発生機序についても理解させていくことを目的としている。	1・後	30	1				○	○			○	○					
○		医学史	外傷予防の観点から現代の柔道整復術の歩みを柔術の上に構築されたもの、また「武道」の伝統と精神の上に構築された医学であることを学びます。	1・後	30	2	○			○				○						

○		医療関係法規	柔道整復師法とその他の医療関係法規について学びます。	1 ・ 前	15	1	○			○	○		
○		社会保障制度	医療費等の社会保障制度を学びます。	1 ・ 前	15	1	○			○	○		
○		運動器・頭部	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない人体の構造を理解するために必要な、ここでは主に頭蓋の基礎を中心に理解させていくことを目的としている。	1 ・ 前	30	2	○			○	○		
○		運動器・体幹	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎について学ぶ。	1 ・ 前	30	2	○			○	○		
○		運動器・上肢	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎について学びます	1 ・ 前	30	2	○			○	○		
○		運動器・下肢	外傷を学ぶ上で欠かすことのできない運動器の基礎（下肢の骨、筋、関節）の学びを通じ、運動器を詳細に知ることが柔道整復師の業務の根幹であることを理解するのがねらいである。具体的には、運動器・下肢について、各器官の名称、位置、神経支配を正しく述べ、個々の骨、筋、関節の形状と構造、それらによって作られる下肢の全体構造とそれらの立体的な構成について機能に関連付けて理解する。	1 ・ 前	30	2	○			○	○		
○		施術総論	各外傷に対応する柔道整復術の基礎を学びます。	1 ・ 後	30	2	○			○	○		
○		骨折総論	柔道整復師が扱う骨損傷は主に外傷性のものであるが、骨損傷を取り巻く環境が変化しているため、多種にわたっての知識が必要になる。そのため、外傷性骨折の基礎となる部分を理解することの他に病的なもの疲労的なものなどを理解することがねらいである。	1 ・ 後	30	2	○			○	○		
○		脱臼総論	主に脱臼発生にかかわる体幹の筋について理解を深める。	1 ・ 後	30	2	○			○	○		
○		軟部組織損傷総論	捻挫、打撲、挫傷といった軟部組織損傷の基礎的部分について総体的に理解するのがねらいである。前期で受講した運動器の授業に基づいて軟部組織（筋、腱、末梢神経、血管、リンパ）の基本的な構造と機能を理解し、軟部組織の損傷状態の把握を行うために必要な軟部組織損傷の形式、外傷発生力学の特徴、各々の軟部組織の損傷における特異的症状など、軟部組織損傷を診る上での基礎を理解する。	1 ・ 後	30	2	○			○	○		
○		業務用語 1	業務上必要な各用語について学びます。	1 ・ 前	15	1	○			○			○
○		業務用語 2	業務上必要な各用語について学びます。	1 ・ 後	15	1	○			○			○

○		固定方法	柔道整復師の施術の方法である固定法の理論を理解し、包帯の走行を一つ一つ理解していく。また、軟性固定材料などを用いた場合にどういった包帯の方法を使用した方が最適なのかを習得することが目的である。	1・前	15	1	○			○		○	○	
○		ほねと筋肉 1	体の各部位について幼児や老人にも理解しやすく説明できる知識を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○		ほねと筋肉 2	体の各部位について幼児や老人にも理解しやすく説明できる知識を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
○		包帯 1	この包帯とは柔道整復師の行う施術法の中に含まれ、患部の安静を図るなどの手段として理解をする学問である。授業形態は、主に実技中心で包帯1では包帯に関する基礎知識から固定材料の基礎知識を学び、基本包帯法の基礎となる技術を習得する。	1・前	30	1				○	○		○	○
○		包帯 2	柔道整復師に必要な包帯の巻き方について学びます。	1・後	30	1				○	○		○	○
○		臨床実習 1	柔道整復師として接骨院業務を行うに必要な知識や技能を身につける事を目的とする。患者の誘導などの適切な接遇、また医療人として業務上知り得た患者の情報に対する守秘義務があることを中心に学ぶ。接骨院での施術開始準備や終了業務を覚え問診（予診）などの基礎を併せて学ぶ。卒業後の実務にて経験するであろう、事項を学生間で想定してその対応を考える。	1・通	45	1				○	○		○	
○		施設見学 1	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	1・後	15	1	○					○	○	
○		解剖学 3	人体各器官の存在場所や特徴を学び解剖学を統括します。	2・前	30	2	○			○			○	
○		解剖学 4	人体各器官の存在場所や特徴を学び解剖学を統括します。	2・後	30	2	○			○			○	
○		生理学 3	人体の生理的活動を具体的に学び理解を深めます。	2・前	30	2	○			○			○	
○		生理学 4	人体の生理的活動を具体的に学び理解を深めます。	2・後	30	2	○			○			○	
○		病理学 2（概論）	炎症や腫瘍等の基礎知識を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
○		病理学 3（概論）	炎症や腫瘍等の基礎知識を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	

○		柔道 3	柔道の理念である「精力善用・自他共栄」の体得と実践を目指していくことがねらいである。柔道の形を学びながら、正しい柔道の技の理合いと攻防を理解していくことを目的としている。	2 ・ 前	30	1				○	○		○		
○		柔道 4	柔道の理念である「精力善用・自他共栄」の体得と実践を目指していくことがねらいである。柔道の形を学びながら、正しい柔道の技の理合いと攻防を理解していくことを目的としている。	2 ・ 後	30	1				○	○		○		
○		ケガの手当 1	軽症の応急手当についての知識を学びます。	2 ・ 前	30	2	○				○		○		
○		ケガの手当 2	軽症の応急手当についての知識を学びます。	2 ・ 後	30	2	○				○		○		
○		骨折理論（上肢）	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 ・ 前	30	2	○				○			○	○
○		骨折理論（下肢）	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 ・ 後	30	2	○				○			○	
○		脱臼理論	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 ・ 前	30	2	○				○		○		
○		軟部組織損傷各論	1年次に学習した軟部組織損傷総論を基に、身体各部位における捻挫、打撲、挫傷について部位ごとにより詳細に理解するのがねらいである。身体を各部位に分け、それぞれの部位の軟部組織損傷について概説、発生機序、程度や部位の分類、鑑別や損傷程度を確認する徒手検査法、特異的症候、治療法、固定法、治癒経過、治癒に影響を与える因子、予後、合併症、鑑別診断を要する類症など、部位ごとに詳細に理解する。	2 ・ 後	30	2	○				○		○		
○		物理療法理論	物理療法の定義は、物理的エネルギーを利用して、生体の神経生理学的反応や化学的反応を引き起こすことにより、損傷部の治癒促進や疼痛抑制及び神経筋機能の賦活を促す治療法とされ、徒手的には与えられない物理的エネルギーによる刺激を、生体に与えることができることが最大の特徴である。後療法の中の物理療法の生体への反応を理解し、実施の仕方を習得することができる。	2 ・ 前	30	2	○				○		○		
○		施術概論 1	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 ・ 前	30	2	○				○			○	
○		施術概論 2	部位別の具体的な外傷の成り立ちや施術方法について学びます。	2 ・ 後	30	2	○				○			○	
○		画像観察	安全に柔道整復術を提供するために様々な医療用画像について学びます。	2 ・ 後	30	2	○				○			○	○

○		予防指導 1	健康に生活する上で必要な知識と情報を学びます。	2 ・ 前	30	2	○			○		○		
○		予防指導 2	健康に生活する上で必要な知識と情報を学びます。	2 ・ 後	30	2	○			○		○		
○		骨折実技（上肢1）	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 ・ 後	30	1				○	○		○	○
○		骨折実技（下肢1）	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 ・ 前	30	1				○	○		○	
○		脱臼実技（上肢）	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 ・ 後	30	1				○	○		○	
○		軟部組織損傷実技	1年次に学習した軟部組織損傷総論をもとに、身体各部位における捻挫、打撲、挫傷の実技について実技を中心に理解するのがねらいである。具体的には、身体を各部位に分け、それぞれの部位の損傷についての概説、発生機序、分類、徒手検査法、症状、治療法、固定法、治癒経過、予後、合併症、鑑別診断を要する類症などについて概略を理解し、触診、徒手検査法、治療法、固定法について詳細に理解し実技を実施する。	2 ・ 前	30	1				○	○		○	
○		触診実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 ・ 前	30	1				○	○		○	○
○		物理療法実技	物理療法の定義は、物理的エネルギーを利用して、生体の神経生理学的反応や化学的反応を引き起こすことにより、損傷部の治癒促進や疼痛抑制及び神経筋機能の賦活を促す治療法とされ、徒手的には与えられない物理的エネルギーによる刺激を、生体に与えることができることが最大の特徴である。柔道整復師の業務である後療法の中の物理療法の生体への反応を理解し、禁忌など危険性を理解できるようになることがねらいである。	2 ・ 後	30	1				○	○		○	
○		後療法実技 1	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 ・ 前	30	1				○	○		○	
○		後療法実技 2	部位別に具体的な外傷の整復・固定・後療法等や治療に至るまでの注意事項を学びます。	2 ・ 後	30	1				○	○		○	
○		臨床実習 2	指導柔道整復師のもとで、接骨院における施術の流れを実習します。	2 ・ 通	45	1				○	○		○	
○		施設見学 2	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	2 ・ 後	15	1	○					○	○	

○		運動処方 1	健康と運動の必要性について応用的な分野を学びます。	2 ・ 前	30	2	○			○			○	
○		運動処方 2	健康と運動の必要性について応用的な分野を学びます。	2 ・ 後	30	2	○			○			○	
○		からだのしくみ 1	体の働きについての概要を学びます。	3 ・ 前	30	2	○			○			○	
○		からだのしくみ 2	体の働きについての概要を学びます。	3 ・ 後	30	2	○			○			○	
○		生理学 5	生理学を統括し理解を深めます。	3 ・ 前	30	2	○			○			○	
○		生理学 6	生理学を統括し理解を深めます。	3 ・ 後	30	2	○			○			○	
○		運動学 1	基礎力学や身体の動きや歩行のメカニズムを学びます。	3 ・ 前	30	2	○			○			○	
○		運動学 2	基礎力学や身体の動きや歩行のメカニズムを学びます。	3 ・ 後	30	2	○			○			○	
○		病理学 4 (各論)	各疾病の特徴を学びます。	3 ・ 前	15	1	○			○			○	
○		整形外科学 1	整形外科治療の基礎知識や代表的治療方法を学びます。	3 ・ 前	30	2	○			○			○	
○		外科学概論 1	外科的治療の基礎と具体的方法を学びます。	3 ・ 前	30	2	○			○			○	
○		外科学概論 2	外科的治療の基礎と具体的方法を学びます。	3 ・ 後	30	2	○			○			○	
○		整形外科学 2	柔道整復師の適応外傷について学びます。	3 ・ 後	30	2	○			○			○	
○		柔道 5	柔道の理念である「精力善用・自他共栄」の体得と実践を目指すのがねらいである。柔道の特性を理解させ、基本動作である礼法、組み方、崩し、身体動作、投技、固め技、連絡技、自由練習等ができるよう目標とする。	3 ・ 通	45	1				○	○		○	
○		骨折整復学 (上肢)	上肢の骨折を統括します。	3 ・ 後	30	2	○			○			○	

○		骨折整復学 (下肢)	下肢の骨折を統括します。	3 ・ 後	30	2	○			○									
○		外傷学	外傷と、その対応策および予防策を学びます。	3 ・ 後	30	2	○			○									
○		施術概論 3	部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学びます。	3 ・ 前	30	2	○			○									
○		施術概論 4	部位別に具体的な外傷の成り立ちや治療方法を学びます。	3 ・ 後	30	2	○			○									
○		機能訓練 1	機能訓練指導員として必要な知識を学びます。	3 ・ 前	30	2	○			○									
○		機能訓練 2	機能訓練指導員として必要な知識を学びます。	3 ・ 後	30	2	○			○									
○		予防指導 3	健康増進や疾病予防を学ぶことで、わが国における健康水準がより向上されることを理解するのがこの講義の目的である。生命の質Quality of Lifeを高め、それが高齢社会における国民医療費の抑制につながるなど、個人や集団が健康であることが社会貢献になることを将来の医療人として学生が考える機会とする。	3 ・ 前	30	2	○			○									
○		予防指導 4	健康増進や疾病予防を学ぶことで、わが国における健康水準がより向上されることを理解するのがこの講義の目的である。生命の質Quality of Lifeを高め、それが高齢社会における国民医療費の抑制につながるなど、個人や集団が健康であることが社会貢献になることを将来の医療人として学生が考える機会とする。	3 ・ 後	30	2	○			○									
○		骨折実技（上肢 2）	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 ・ 前	30	1				○	○								
○		骨折実技（下肢 2）	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 ・ 前	30	1				○	○								○
○		脱臼実技（下肢）	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 ・ 前	30	1				○	○								○
○		徒手検査法実技	2年次に学習した軟部組織損傷各論を基に、各部位別、各損傷ごとに軟部組織損傷時の触診や整形外科的テスト法について、正確な実技とその注意事項を学び、併せて鑑別すべき疾患を理解することがねらいである。身体を部位ごとに分け、それぞれの部位について起こる軟部組織損傷の概説、発生機序、症状、治療法、予後、合併症、鑑別すべき類症などについて口述し、視診、触診、徒手検査法を実施して損傷程度のカテゴリを行う。	3 ・ 前	30	1				○	○								○

○		ギプス固定実技	部位別に具体的な外傷の整復・固定や治療に至るまでの注意事項を学びます。	3 ・ 前	30	1			○	○	○	○
○		脱臼整復実技	脱臼を統括します。	3 ・ 後	30	1			○	○	○	
○		テーピング固定法実技	軟部組織損傷の時に、各部位、各損傷ごとに実施するテーピング固定法について、身体を代表的なテーピング法が存在する部位に分け、テーピング固定の目的、種類、範囲、肢位、テープの走行、固定期間、材料、必要な配慮について理解し、認定実技審査や卒後にアスレティック・トレーナーとして現場に出る、或いは卒後の臨床現場において活用するべく、知識を蓄え正確な方法とその注意事項を学ぶことが狙いである。	3 ・ 後	30	1			○	○	○	
○		臨床実習 3	柔道整復師として接骨院業務を行うに必要な知識や技能を身につける事を目的とする。最終学年であるため、共通症例にて外傷のとらえ方などのを学ぶ。その症例のインフォームドコンセントの具体例、整復や固定、後療法まですべてを実践する。また、その実体験をもとに討論することでより理解を深める。	3 ・ 前	45	1			○	○	○	
○		臨床実習 4	検査、整復、固定を円滑に実施する。柔道整復師として接骨院業務を行うに必要な知識や技能を身につける事を目的とする。最終学年であるため、共通症例にて外傷のとらえ方などのを学ぶ。	3 ・ 前	45	1			○	○	○	
○		特別ゼミ	柔道整復師国家試験合格のための特別講座を実施します。	3 ・ 通	60	4	○		○	○		
○		施設見学 3	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	3 ・ 前	15	1	○			○	○	
○		施設見学 4	様々な施設を訪問し社会人として見分を広めます。	3 ・ 後	15	1	○			○	○	
合計			100 科目	2940単位時間（163単位）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目2940時間(163単位)取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。